

システム全体に共通で関係する各種設定を行います。

■ 導入設定・規定値設定

項目名	設定値
1 導入開始日	2011/01/01
2 決算月日	0699
3 入力可能年月日自	1999/01/01
4 入力可能年月日至	2999/12/31
5 受発注入力可能年月日自	1990/01/01
6 受発注入力可能年月日至	2999/12/31
7 税算出法	調整税
8 税計算方法	請求(支払)時外税
9 標準課税売上コード	課売
10 標準課税仕入コード	課仕
11 伝票初期表示担当者	マスター設定担当者
12 マスタ検索表示件数	100
13 伝票検索表示件数	100
14 表示設定を担当者別に設定	しない
15 得意先別商品単価	数量別売上単価を使用する
16 仕入先別商品単価	仕入先別商品単価を使用する

【導入開始日】ふくろう販売の本番開始日を年月日指定します。通常は導入時に設定されていますので、特に指定する必要がありません。

設定方法:

画面起動時は、「導入設定・規定値設定」が表示された状態となっています。
(上部ボタンで会計連動設定との切り替えができます)

必要箇所を直接修正し、「更新」ボタン押下で設定更新となります。

「取消」ボタン押下すると、更新せずに入力内容がリセット表示されます。
「終了」ボタン押下すると、更新せずに画面を閉じます。

各項目説明:

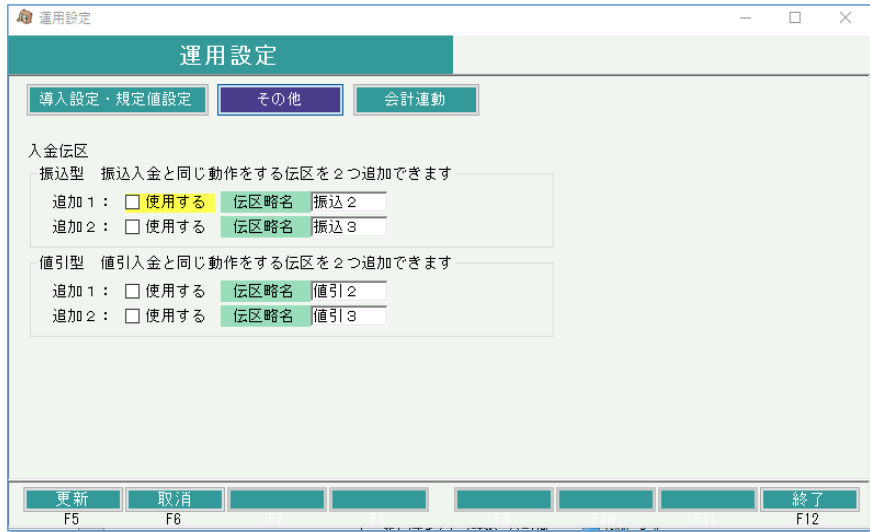
項目名	必要時 設定	通常は 設定不要	説明 (下線箇所は選択値の初期設定値です)
導入開始日		●	ふくろう販売の本番開始日を年月日指定します。通常は導入時に設定されていますので、特に指定する必要がありません。
決算月日		●	会社の決算月日です。月日 (mmdd) で指定します(日部分は1~27,末日=99)。 通常は導入時に設定されていますので、特に指定する必要がありません。
入力可能年月日自	●		受注発注伝票以外で、これ以降の日付の伝票のみ登録を可とする年月日を指定します。誤登録を防ぐために使用します
入力可能年月日至	●		受注発注伝票以外で、これ以前の日付の伝票のみ登録を可とする年月日を指定します。誤登録を防ぐために使用します
受発注入力可能年月日自	●		受注発注伝票で、これ以降の日付の伝票のみ登録を可とする年月日を指定します。誤登録を防ぐために使用します。
受発注入力可能年月日至	●		受注発注伝票で、これ以前の日付の伝票のみ登録を可とする年月日を指定します。誤登録を防ぐために使用します。
税算出法	●		会計連動している場合に会計に流れる消費税の単位を、一括税(締切時税計算)/調整税(明細毎税計算) から選択します。
税計算方法	●		得意先、仕入先の新規登録時の税計算法初期値を、請求(支払)時外税/伝票毎内税/伝票毎外税/税計算なし から使用頻度の高いものを選択します。

各項目説明:

項目名	必要時 設定	通常は 設定不要	説明（下線箇所は選択値の初期設定値です）
標準課税売上コード*		●	商品登録で初期表示される課税区分(売上)の初期値を課税区分リストから選択します。通常は課税売上設定されていますので設定不要です。
標準課税仕入コード*		●	商品登録で初期表示される課税区分(仕入)の初期値を課税区分リストから選択します。通常は課税仕入設定されていますので、設定不要です。
伝票初期表示担当者	●		伝票新規登録時の営業担当者初期値を、 <u>マスター設定担当者/ログイン担当者</u> から採用したい方を選択します。
マスタ検索表示件数	●		マスタ検索画面の一覧表示件数を指定します。
伝票検索表示件数	●		伝票検索画面の一覧表示件数を指定します。
表示設定を担当者別に設定	●		入力画面の表示項目設定を担当者別に設定するか、しないかを指定します。「しない」場合誰かの設定変更が全員に反映します
得意先別商品単価	●		受注、売上で使用する単価を、使用しない/ <u>得意先別商品単価/数量別売上単価</u> から選択します。 数量別を選択した場合は、自動的に得意先別商品単価も使用可となります。
仕入先別商品単価	●		発注、仕入で使用する単価を、使用しない/ <u>仕入先別商品単価</u> から選択します。
倉庫を使用		●	各入力画面で倉庫を入力するかどうかを、 <u>する/しない</u> から指定します。「しない」を選択した場合、在庫管理はできなくなります。 伝票登録後に変更は不可となります。
原価割れチェックをする	●		受注、売上登録時に原価割れチェックをするかどうかを、 <u>しない/警告/エラー</u> から選択します。 エラー選択だと、金額より原価が多い場合は伝票更新ができません。
予定在庫チェックをする	●		伝票更新時に予定在庫一覧を自動表示するかどうかを、 <u>する/しない</u> から選択します
与信限度額チェックをする	●		売上登録時に与信限度額チェックをするかどうかを、 <u>しない/警告/エラー</u> から選択します。 エラー選択だと、与信オーバー時に伝票更新ができません。
営業債権で与信チェックする	●		上記与信限度額チェックで、売掛債権に受注残を含めた営業債権で与信チェックするかどうかを、 <u>する/しない</u> から選択します。
伝票リレーで倉庫変更する		●	伝票リレー(受注→売上の払出/発注→仕入の受入)時に倉庫を変更可とするかどうかを、 <u>する/しない</u> から選択します。 通常は設定不要です。
入金個別消込する	●		入金時に同時に売上を消込するかどうかを指定します。
支払個別消込する	●		支払時に同時に売上を消込するかどうかを指定します。
受注入力で見積原単価を引き継ぐ	●		見積リレーで受注伝票を作成した場合に見積原単価を受注原単価に初期表示するかを指定します
受注入力で同時発注する	●		明細行で仕入先を指定している場合、更新時に発注入力を表示します。
売上で出荷区分を自動変更	●		受注→売上で分納があり、売上数量変更時に全数を一部に自動変更するかを指定します
売上入力を受注No入力必須	●		売上入力を受注Noの指定を必須にするかを指定します。
売上入力を受注原単価を引き継ぐ	●		受注リレーで売上伝票を作成した場合に受注原単価を売上原単価に初期表示するかを指定します
売上入力で同時仕入する	●		明細行で仕入先を指定している場合、更新時に仕入入力を表示します。
仕入入力が発注No入力必須	●		仕入入力が発注Noの指定を必須にするかを指定します。
仕入で入荷区分を自動変更	●		発注→仕入で分納があり、仕入数量変更時に全数を一部に自動変更するかを指定します
一括税伝票の修正・削除する	●		「する」にすると売上入力、仕入入力で請求時一括税・支払一括税の伝票を修正・削除ができます
原単価を発注・仕入単価にする	●		受注原単価、売上原単価を発注単価や仕入単価として表示するかを指定します
棚卸評価法	●		商品の新規登録時に初期採用される棚卸評価法を、 <u>最終仕入/在庫単価</u> から選択します。
原価計算法	●		商品の新規登録時に初期採用される原価計算法を、 <u>標準原価/最終仕入</u> から選択します。
支払済伝票の修正	●		支払済伝票の修正を許可する/ <u>しない</u> を指定します。
検索画面の事業所初期表示	●		各検索画面の事業所絞り込み条件の初期値を <u>絞り込みなし/ログイン担当者の事業所</u> から選択します。
受注、売上入力の納入先検索	●		受注、売上入力の納入先検索の絞り込み初期表示を、 <u>絞り込みなし/事業所で絞り込み/得意先で絞り込み</u> から選択します。
受注、売上入力の商品検索	●		受注、売上入力の商品検索の絞り込み初期表示を、 <u>絞り込みなし/事業所で絞り込み/得意先で絞り込み</u> から選択します。

各項目説明:

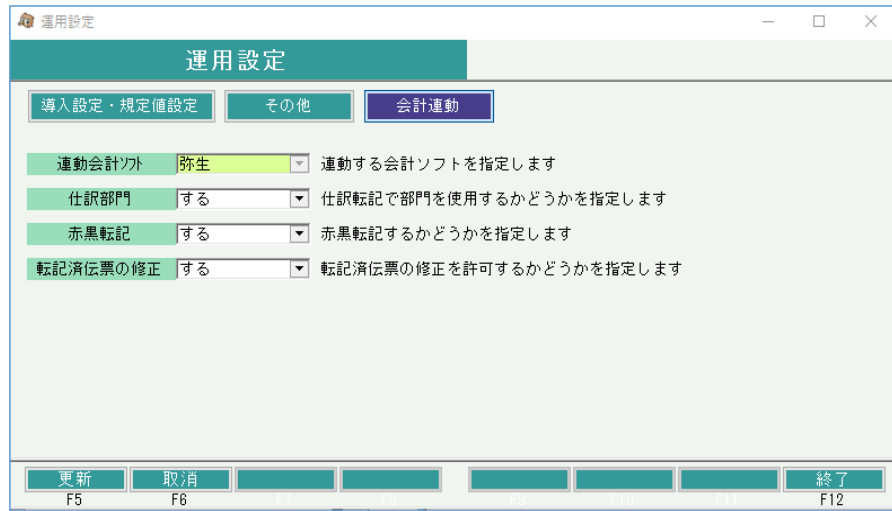
項目名	必要時 設定	通常は 設定不要	説明（下線箇所は選択値の初期設定値です）
発注、仕入入力直送先検索	●		発注、仕入入力直送先検索の絞込み初期表示を、 <u>絞込みなし</u> /事業所で絞込み/仕入先で絞込み から選択します。
発注、仕入入力商品検索	●		発注、仕入入力商品検索の絞込み初期表示を、 <u>絞込みなし</u> /事業所で絞込み/仕入先で絞込み から選択します。
FB入金データフォーマット	●		FB入金データのフォーマットを選択します
FB入金請求先引当方法	●		FB入金データから請求先を引当てる方法を選択します
FB入金振込料自動計上	●		「する」を設定している場合「要回収額 - 振込額」を当方負担振込料に設定します。
FB入金振込料下限額	●		「FB入金振込料自動計上」が「する」の場合に振込料と判断する差額下限額を指定します。
FB入金振込料上限額	●		「FB入金振込料自動計上」が「する」の場合に振込料と判断する差額上限額を指定します。
単価の小数以下表示桁	●		伝票入力画面やマスタ画面の単価の小数以下表示桁数を指定します(0~4)
数量の小数以下表示桁	●		伝票入力画面やマスタ画面の数量の小数以下表示桁数を指定します(0~4)
重量の小数以下表示桁	●		伝票入力画面やマスタ画面の重量の小数以下表示桁数を指定します(0~4)
規格・型番名称	●		商品の規格・型番(品名2)のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品画像フォルダ	●		商品の画像指定で使用するフォルダを絶対パスで指定します。パスは全クライアントから共通で参照できるパスとしてください。
運送担当者初期設定	●		入出荷表の運送担当者に初期設定する担当者を <u>しない</u> /地区(得意先)マスタの担当者/伝票の担当者 から選択します。
配達、引取時刻初期設定	●		入出荷表の配達、引取時刻を伝票入力時に指定した各時刻から初期設定するかどうかを <u>する</u> /しない から選択します。
有効期限文字列	●		見積入力時に、有効期限に初期設定される文字列を指定します。
得意先区分名1	●		得意先区分1のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
得意先区分名2	●		得意先区分2のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
得意先区分名3	●		得意先区分3のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
得意先区分名4	●		得意先区分4のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
得意先区分名5	●		得意先区分5のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
仕入先区分名1	●		仕入先区分1のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
仕入先区分名2	●		仕入先区分2のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
仕入先区分名3	●		仕入先区分3のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
仕入先区分名4	●		仕入先区分4のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
仕入先区分名5	●		仕入先区分5のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品区分名1	●		商品区分1のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品区分名2	●		商品区分2のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品区分名3	●		商品区分3のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品区分名4	●		商品区分4のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品区分名5	●		商品区分5のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品分類名1	●		商品分類1のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品分類名2	●		商品分類2のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。
商品分類名3	●		商品分類3のタイトルを変更できます。変更すると関連する画面や帳票のタイトルが切り替わります。



項目名称	説明
入金伝区	使用するチェックをONにすると、入金入力で利用できる伝区を増やすことができます。 伝区略名には任意の文字 全角3文字(半角6文字)を指定できます。
振込型追加1、 振込型追加2	入金入力で 振込型の伝区は、入金口座、入金額が指定できます。 値引型の伝区は、入金額が指定できます。(内部的に入金額で内税計算され、税が算出されます)
値引型追加1、 値引型追加2	

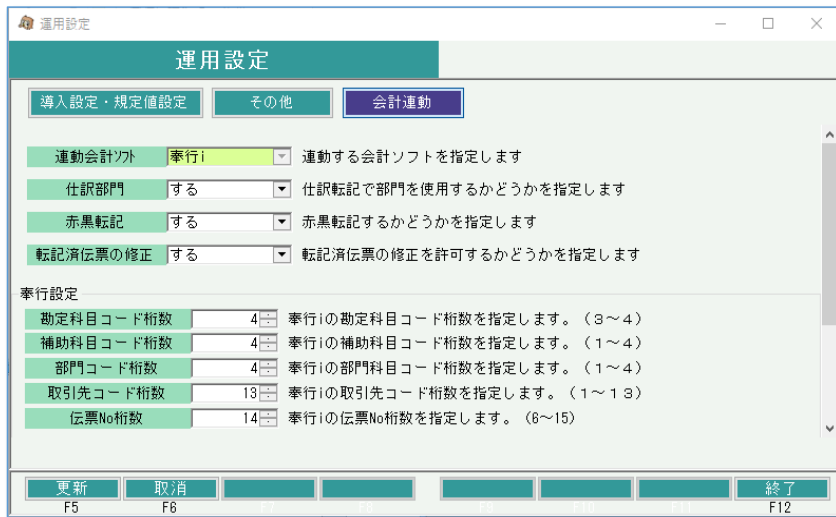
■ 会計連動設定

1) 「弥生会計」連動で導入されている場合



項目名称	説明
連動会計ソフト	「弥生」固定となります。
仕訳部門	会計連動を行う場合、部門を使用するかどうか選択できます。 「する」にした場合は、部課マスタにて「弥生補助」を指定できるようになり、会計側の部門がマスタに指定できるようになります。
赤黒転記	会計ソフトへの仕訳連動を使用している場合、伝票修正、削除時に赤伝黒伝仕訳(修正仕訳)作成を行うかどうかを選択します。 ※すでに登録されている伝票が存在する場合、変更はできません。
転記済み伝票の修正	会計ソフトへの仕訳連動を使用している場合、転記済みの伝票の修正を認めるか認めないかを選択します。

2) 「勘定奉行i8」「大蔵大臣」連動で導入している場合



項目名称	説明
連動会計ソフト	「奉行i」固定となります。
仕訳部門	会計連動を行う場合、部門を使用するかどうか選択できます。 「する」にした場合は、部課マスタにて「奉行補助」を指定できるようになり、会計側の部門がマスタに指定できるようになります。
赤黒転記	会計ソフトへの仕訳連動を使用している場合、伝票修正、削除時に赤伝黒伝仕訳(修正仕訳)作成を行うかどうかを選択します。 ※すでに登録されている伝票が存在する場合、変更はできません。
転記済み伝票の修正	会計ソフトへの仕訳連動を使用している場合、転記済みの伝票の修正を認めるか認めないかを選択します。
勘定科目コード桁数 補助科目コード桁数 部門コード桁数 取引先コード桁数 伝票No桁数	勘定奉行側 で設定している各項目の桁数を設定します。

※「大蔵大臣」で導入されている場合、担当SEまでご確認ください。